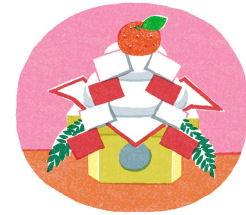




2014年 闘春 年頭にあたって 執行委員長 小林國博



組合員・OB、家族の皆さん！謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨一年間を振り返れば、安倍政権による「戦争の出来る国づくり」が、急ピッチで進んだ一年ではなかったでしょうか。参院選での自民党のスローガンは「日本を取り戻す」でしたが、取り戻すのはただの日本ではなく、かつての大日本帝国を取り戻そうとしていることが明白となりました。

安倍首相は12月22日放送のNHK番組で、憲法改正について「私のライフワークだ。何のために政治家になったのか。何としてもやり遂げたい」と述べ、強い意欲を示したそうです。同時に「(衆議院は)3年の任期がある。この期間、日本を正しい方向に導くためにも落ち着いて政治家が仕事をしなければならない」と述べています。安倍政権は昨年12月6日に特定秘密保護法を成立させました。さらに、17日の国家安全保障会議(日本版NSC)と閣議で、外交・防衛政策の基本方針となる「国家安全保障戦略」を初めて決定しました。その中では、武器輸出3原則の見直し、防衛大綱、中期防衛力整備計画を決定しています。これらの施策のひとつひとつが、憲法9条に対する攻撃であり、「戦争の出来る国」づくりの準備に他なりません。

12月26日に安倍首相は、靖国神社を参拝しました。安倍首相は「戦争の惨禍によって人々が苦しむことのない時代をつくる決意を込め、不戦の誓いを立てた」と主張しています。しかし、中国や韓国ばかりでなく世界の国々からも、「不戦の誓い」をする場所を間違えていると批判の嵐が巻き起こっています。これもまた、安倍首相の独り善がりを示す一例に過ぎません。相手がどう思うかなどは考えもしないばかりでなく、そもそも中国や韓国と仲良くやっていく気がないということなのです。

私たちはアベノミクスによる、一時的な経済の好調に誤魔化されてはなりません。安倍首相にとっての本丸は、経済ではなく憲法改悪なのです。安倍首相の「国益を守る」は「国民をだます」と読まなければなりません。

いよいよ今春からは、集団的自衛権行使を巡る議論が開始されます。耳障りのよい言葉、明るくさわやかでクリーンであるかのようなイメージに騙されることなく、その本質を正しく見抜き職場から、地域からその危険性を訴えて行こうではありませんか。

さらに2014年、JR東海に目を転じれば、リニア中央新幹線が着工されようとしています。内外ともに、私たちにとっての重要な年となります。

組合員・OB、家族の皆さん！2014年は、私たちの真価が問われる年となります。仲間と共に固くスクラムを組み、前に向かって雄々しく進もうではありませんか！